猪之鼻奨学会

猪之鼻奨学会報　第 20 号　　題字　井出源四郎（第八代千葉大学学長）

編集発行者
公益財団法人
猪之鼻奨学会
千葉市中央区亥鼻１丁目８番１号
〒260-8670　千葉大学医学部内
電話　043－226－2509　内線 5024

創　立　1915年（大正４年）

医学部の使命　研究・教育・診療

千葉大学大学院医学研究院
前教授　高　橋　和　久

医学部の使命は、研究、教育、診療にあり、それらを通じて国民に対し良質な医療を提供することにあります。研究においては基礎研究、臨床研究によらず、病態解明により新たな診断、治療、予防に関する知見を得ることを目的とします。教育においては卒前、卒後を通じて信頼される優秀な医師を輩出することをめざします。また、診療においては一般的医療から先進的医療までを提供し、国民に益することを目標とします。

研究、教育、診療は各々独立しているようにも思えますが、医療を通じて国民の幸福を目指すという点で共通しており、むしろ一体的に理解するべきものと考えます。例えば、新たな研究成果により教育内容に変化を生じ、診療にも大きな進歩をもたらします。医学教育ではリサーチマインドを涵養するカリキュラムが取り入れられ、学習成果基盤型教育にみられるような診療に直結した教育が取り入れられています。一方で、診療を行う立場からは、臨床経験のある医師による研究に期待されるところは大きく、また診療の実際を医学教育の中で伝えることは極めて大切であると考えます。

千葉大学においても、このような研究、教育、診療が一体となった取り組みをさらに推進することにより、多くの臨床医、研究者を千葉大学、あるいは千葉県にとどめ、ひいては千葉県における医師不足という社会問題の解決にもつなげることができると考えます。

現在、大学を取り巻く環境は国からの運営費交付金の削減など一層厳しさをましております。この中で、外部資金の獲得が強く求められております。研究費や寄付金の獲得には、その意義を明確化しなければなりません。千葉大学としても、積極的に外部資金が投入されるような成果を研究、教育、診療が一体化した形で示せるように努力してまいります。皆様にはそのような活動をご評価いただき、猪之鼻奨学会にご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

亥鼻における薬学教育研究

千葉大学大学院薬学研究院
教授　山　口　直　人

薬学部・薬学研究院は、平成16年４月に約半数の研究室が亥鼻に移転し、平成23年10月には残りの研究室と事務部門の全てが亥鼻に移転し、現在４年半を過ぎようとしています。薬学部・薬学研究院は、医学部・医学研究院、附属病院、看護学部、真菌医学研究センターと密接に連携して、最先端の教育・研究を行うことができるようになりました。

平成18年の薬学教育制度改正で、創薬研究を目指す４年制学科と薬剤師国家試験受験資格が与えられる６年制学科が設けられました。本学では、３年次に１学年80名の学生の希望を基に４年制と６年制に40名ずつ分かれます。４年次からは両学科の学生とも研究室に配属して研究活動を始めます。４年制を卒業後に殆どの学生は修士に進学します。修士修了生や６年制卒業生の中で研究を続ける学生は博士課程に進学し、筆頭著者の英文論文を１報以上発表して学位を取得し、研究者の道に入ります。現在、学部400名、修士100名、博士70～80名、研究生数名（総勢およそ580名）に対して、教員63名（教授22名、准教授・講師15名、助教26名）で、教育と研究を行っています。日本薬学会年会の優秀学生発表賞受賞者数は、全国の薬学部の中でもトップクラスの実績（平成23～26年度：１位、５位、３位、２位）を挙げています。また、今年度は日本学術振興会特別研究員ＤＣ１・ＤＣ２・ＰＤとして11名が研究しており、日本学生支援機構奨学金返還免除者は過去３年間で修士15名、博士８名が選ばれています。

猪之鼻奨学会は年間150万円を研究助成しており、薬学にも毎年１名の優れた若手教員に研究助成金が授与され、若手教員の研究奨励に非常に大きな力となっております。昨今の超低金利の時代、猪之鼻奨学会の運営は財政的に厳しい状況となっております。医学・薬学の一層の研究活性化のために、皆様のご理解とご寄付のご支援をよろしくお願い申し上げます。

ご寄付のお願いと寄付金の税額免除のお知らせ

猪之鼻奨学会は、大正４年（1915年）に創立されて以来、多くの方々からの善意の寄付金により奨学事業を実施しております。

平成24年４月１日「公益財団法人」として、新たにスタートした猪之鼻奨学会は、「定款」に謳いますよう、医学及び薬学の研究を奨励することを目的として、研究事績の優秀な者に研究費の補助、そして学資の欠乏を告げた学生に学資の貸与を行ないます。これらの事業を遂行するために、どうか皆さまのご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

一口5,000円ですが、ご都合により何口でも結構です。

同封の郵便振替用紙または銀行の振込用紙にてお振込み下さい。

なお、「特定公益増進法人化にともなう寄付金の税額控除」に関しては、公益財団法人へ移行したことにより、本会が税制上の優遇措置の対象となる特定公益増進法人となりました。従って、個人によるご寄付の場合、所得の40％を上限として、ご寄付金額から２千円を差し引いた金額が、その年の課税所得から控除されます。法人によるご寄付の場合、一般の寄付金とは別枠で、特別損金算入限度額まで、損金の額に算入することが認められます。

今後とも、皆様方の一層のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人猪之鼻奨学会　理事・評議員一同

平成27年度　公益財団法人猪之鼻奨学会事業報告

自 平成27年４月１日　至 平成28年３月31日

１．事業の状況

⑴ 研究助成金（150万円）の助成　　内訳　各30万円　５件

氏名	所属	研究領域	研究題目
渡部隆義	千葉県がんセンター研究所	がん遺伝学	分子標的アルキル化剤の機能性の向上を指向した分子設計
丹羽文俊	放射線医学総合研究所	神経画像	アミロイド・タウPETを用いたメタボリックシンドローム患者における認知症発症病態機序の解明
猪口剛	千葉大学大学院医学研究院	法医学死後画像	死後頭頂部血管造影CTを用いた椎骨動脈損傷および脳実質内出血の検討
彦坂健児	千葉大学医学部	感染生体防御学	ミトコンドリアDNA塩基配列を用いたトキソプラズマの遺伝子型解析
青木重樹	千葉大学大学院薬学研究院	薬物毒性学	がんエクソソームに着目した慢性骨髄性白血病治療時の薬剤耐性機構に関する研究

⑵ 奨学金貸与　　60万円

氏　　名　　根津裕一郎

大学・専攻　　東京理科大学　薬学部　薬学科１年次

⑶ 猪之鼻奨学会会報発行　　13,000部

収　支　計　算　書

平成27年４月１日から平成28年３月31日まで

公益財団法人猪之鼻奨学会

（単位：円）

科目	当年度	前年度	差異	備考
Ⅰ．収入の部				
１．基本財産運用収入				
基本財産利息収入	504,000	504,000	0	
事業収入	0	0	0	
２．寄付金収入				
寄付金収入	3,628,000	3,201,000	427,000	
３．雑収入				
受取利息	9,402	37,010	−27,608	
固定資産売却益	0		0	
４．基金収入				
特定預金取崩し収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	4,141,402	3,742,010	399,392	
前期繰越収支差額	931,932	2,730,333	−1,798,401	
収入合計(B)	5,073,334	6,472,343	−1,399,009	

勘定科目	当年度	前年度	差異	備考
Ⅱ．支出の部				
１．事業費				
研究の助成				
研究補助金	1,500,000	1,500,000	0	
奨学金貸与			0	
奨学貸費金	600,000	0	600,000	
事業費合計	2,100,000	1,500,000	600,000	
２．管理費				
⑴ 給料	764,398	633,267	131,131	
⑵ 旅費・交通費	89,520	106,160	−16,640	
⑶ 手当・謝金	50,000	50,000	0	
⑷ 事務備品費	0	15,864	−15,864	
⑸ 消耗品費	57,235	35,344	21,891	
⑹ 印刷費	160,436	173,318	−12,882	
⑺ 光熱水料	0	0	0	
⑻ 賃借料	33,673	33,673	0	
⑼ 通信運搬費	26,846	25,482	1,364	
⑽ 会議費	6,069	9,741	−3,672	
⑾ 支払手数料	278,640	166,320	112,320	
⑿ 雑費	100,236	81,742	18,494	
⒀ ホームページ関連費	43,200	43,200	0	
⒁ 租税公課	0	6,300	−6,300	
管理費合計	1,610,253	1,380,411	229,842	
３．経常外支出	0	0	0	
４．研究助成基金預金支出	0	0	0	
当期支出合計(C)	3,710,253	2,880,411	829,842	
当期収支差額(A)−(C)	431,149	861,599	−430,450	
次期繰越収支差額(B)−(C)	1,363,081	3,591,932	−2,228,851	

公益財団法人
猪之鼻奨学会募金結果報告

千葉大学医学部・薬学部同窓会員
および関係者各位

平素より公益財団法人猪之鼻奨学会の事業につきましては、多くの方々の深いご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

平成27年度に実施されました募金は、下記のように、大勢のご賛同とご協力が得られました。ここにご報告させていただきます。

ご寄付いただきました金員は、当奨学会の事業費として有効に活用させていただきたいと存じます。お蔭様を持ちまして平成27年度における助成件数は5件で、総額150万円の研究助成金を交付、また奨学金1名60万円を支給することができました。

今後も、皆様方の暖かいご支援とご指導をいただきながら当奨学会の発展に理事・評議員共に更なる努力を重ねる所存です。ここに深甚なる謝意を表するとともに、皆様方のご健勝とご発展を祈念申し上げます。

記

募金件数　百四十三件
募金総額　三、六二八、〇〇〇円

平成二十八年五月一日
公益財団法人猪之鼻奨学会
理事・評議員一同

高額寄付者御芳名録（平成27年度）

（敬称略）

ぬのはな同窓会
薬友会
七夕の会　東京都
草刈隆　千葉市
中嶋弘道　夷隅郡
三橋稔　習志野市
渡辺孝太郎　茨城県
深尾立　つくば市
星山圭鉱　新潟県

安藤冨美子　さいたま市
飯田昭彦　千葉市
軍司祥雄　四街道市
小屋佐久次　前橋市
橋本英明　東京都
田村隼也　埼玉県
中村伸子　千葉市
嶺井進　沖縄県

平成27年度寄附者名簿

氏名	県・市
新井正	東京都
浅野尚	香取市
安藤吉治	神奈川県
天野晋	館山市
市川智彦	千葉市
今泉絢子	愛知県
今関文夫	千葉市
石下峻一郎	埼玉県
伊藤彰一	千葉市
岩倉弘毅	東京都
今野貞夫	千葉市
石川達雄	千葉市
石井徹	東京都
榎並智	鶴ケ島市
江畑耕作	旭市
大串順	岡山県
奥村康	千葉市
太田要生	千葉市
大渕徹	神奈川県
太田真	栃木県
小川不士子	千葉市
織田成人	千葉市
小野寺美津雄	神奈川県
唐澤祥人	東京都

氏名	県・市
片倉透	銚子市
金子勝	沖縄県
門脇淳	栃木県
菊池義公	埼玉県
吉井功	千葉市
菊地直美（暢行）	神奈川県
菊地善秀	埼玉県
鯨井辰男	埼玉県
窪田叔子	船橋市
黒木春郎	いすみ市
倉持宏明	船橋市
郡司宗文	香取市
小熊英夫	東京都
近藤博子	東京都
幸部吉郎	埼玉県
小林弘忠	習志野市
香田真一	千葉市
佐久川輝章	千葉市
佐藤敏子	東京都
嶋田俊恒	千葉市
清水雅久	島根県
島田哲男	四街道市
清水みどり	東京都
清水順三郎	千葉市

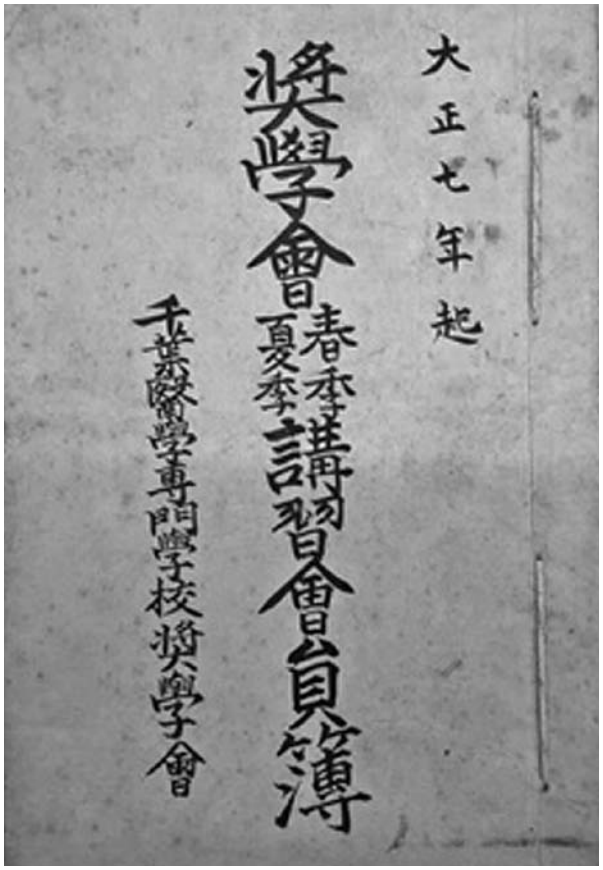
氏名	県・市
清水栄司	千葉市
清水精子	千葉市
須藤壮一郎	野田市
砂田荘一	千葉市
諏訪園靖	千葉市
瀬川襄	東京都
橘春美	神奈川県
田所重紀	茂原市
田中則好	市川市
田波隆三	東京都
武田豊彦	兵庫県
竹本直輝	松戸市
田垣内祐吾	千葉市
千葉胤道	千葉市
加来俊貞	千葉市
塚原重雄	山梨県
中島祥吉	東京都
中村宏	千葉市
奈良林定	埼玉県
中村清吾	東京都
仲尾清	沖縄県
中村衛	習志野市
中野繰一	市原市
中田正子	京都府
西原源太郎	千葉市
西原尚史	府中市
野田宏子	千葉市
野積邦義	船橋市
乗本将輝	千葉市
野溝春子	長野市
服部孝道	千葉市
長谷川正博	東京都
花輪孝雄	山梨県
久田俊和・恵子	長野県
広谷忠彦	東京都
檜垣有徳	西東京市
藤塚光慶	松戸市
古川斎	千葉市
福島通夫	東京都
藤本重義	横浜市

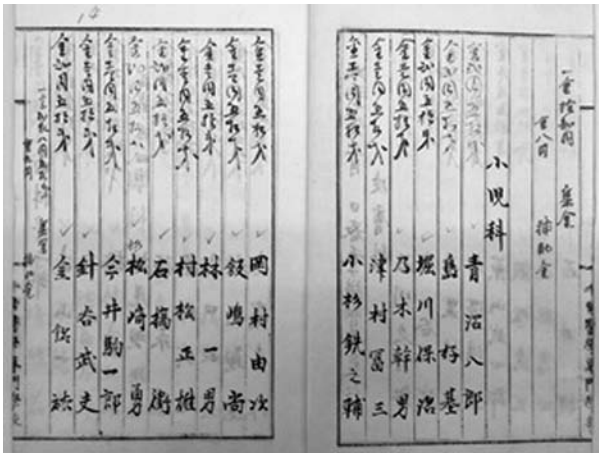
氏名	県・市
福田武隼	栃木県
古木新	香取市
藤澤武彦	千葉市
古川隆男	八千代市
藤野善之	千葉市
細井湧一	船橋市
松野淳治	松本市
松前元	北海道
増村道雄	兵庫県
道永麻里	東京都
宮坂斉	長野県
宮薗千代子	東京都
水鳥川俊夫	茂原市
道永幸治	船橋市
村上泰興	船橋市
森豊	神奈川県
安田敏子	千葉市
山田善重	千葉市
山内広美	市川市
山門悦子	栃木県
矢田洋三	袖ケ浦市
山本義一	千葉市
山本光之	静岡県
山崎禅	東京都
山浦房江（敬）	東京都
山本恵司	千葉市
山本友子	千葉市
山口直人	千葉市
吉野めぐみ	船橋市
横山宏	市川市
渡辺和夫	千葉市
若新洋子	千葉市
若新政史	千葉市
渡邉栄三	千葉市
中村和郎	千葉市
武田恒弘	千葉市
前川岩夫	静岡県

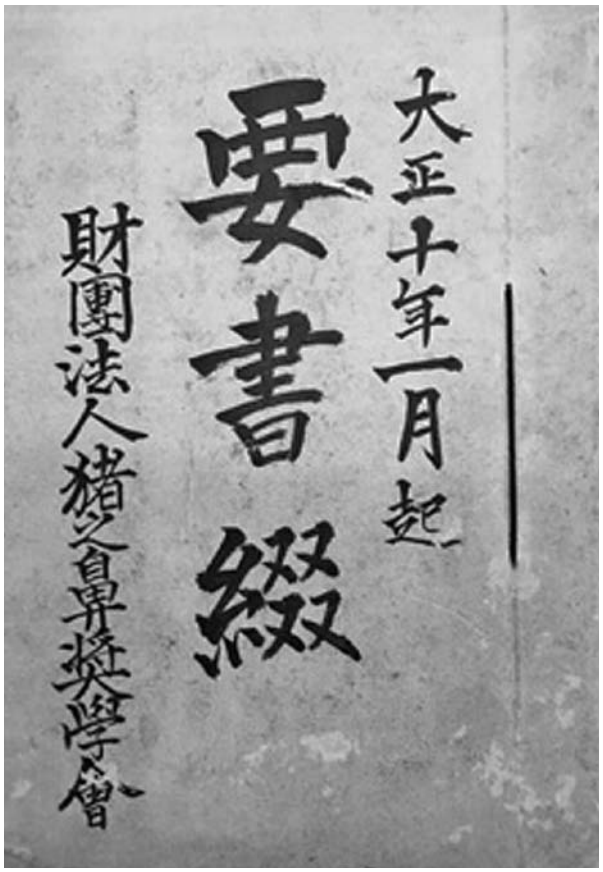
平成二十八年三月三十一日現在
総合計　三、六二八、〇〇〇円

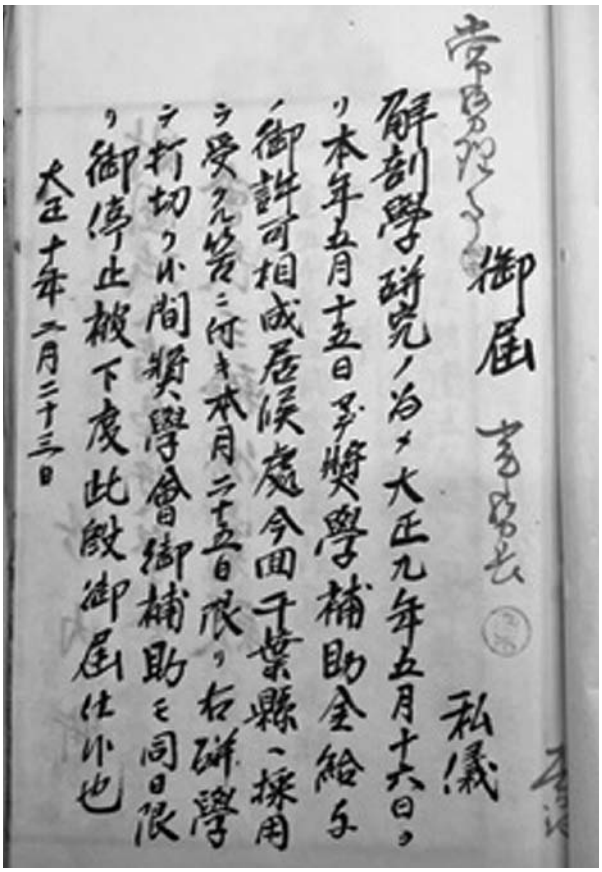
猪之鼻奨学会の歴史資料

本奨学会の長い歴史の証左となる貴重な資料の一部をご紹介申し上げます。









編集後記

本会の前身にあたる千葉医学専門学校奨学会が発足したのは1915年（大正4年）12月のことだそうで（1920年11月に現・猪之鼻奨学会に改称）、昨年末に100周年を迎えました。これもひとえに皆様方そして先達のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。最近では、4年前2012年の公益財団法人化、一昨年2014年の事務所移転を経て、ますますの発展の基盤が整いました。お蔭様をもちまして、ご寄附による基金も年々漸増してきております。毎年、県下の医・薬学研究者への5件計150万円の研究助成、医・薬学部学生への計60万円の奨学金貸与等、本会の主要事業も滞りなく遂行できております。とは申しますものの、本会の使命を十二分に全うするためには、正直なところ、財政基盤が未だ脆弱であると言わざるをえない状況です。本会の社会貢献に徹した活動では、その予算のほぼ全額が皆様方からのご寄附によって支えられております。申し上げるまでもなく、公益財団法人化された本会へのご寄附は、所得・税額控除の対象である慈善ご寄附となります。皆様方のますますのご支援を切にお願い申し上げる次第であります。

（監事　瀧口正樹）